



舟橋中学校だより

Funahashi Junior High School News

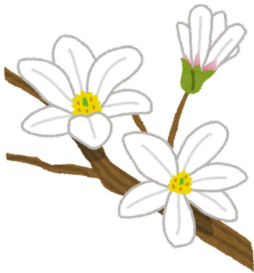
令和4年度 学校評価 特別号 令和5年3月10日

本校の教育目標

「学び」の精神をもち、
仲間を思いやり、
たくましく生きる生徒の育成

令和4年度 舟橋中学校の教育活動についての振り返り

校長 内生 蔵 保 人



令和4年度もあとわずかとなりました。

保護者の皆様、地域の皆様には、年度当初より本校の教育活動に対するご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、年度末にあたり、今年度の学校としての活動を振り返るとともに、保護者の皆様にご協力いただきましたアンケート等の結果についても以下のようにまとめましたのでお知らせいたします。

また、この内容につきましては、去る2月28日(火)に行われました舟橋村小・中学校運営協議会においても報告し、協議の上、次年度に向けたご意見をいただいております。

1 本校の教育目標具体化に向けて

- ・本校の教育目標は、『「学び」の精神をもち、仲間を思いやり、たくましく生きる生徒の育成』です。その具現化に向けて、知・徳・体の3つの柱から具体目標やアクションプラン（より具体的な数値目標を設定したもの）を設定し取り組んできました。
- ・本校の教育活動の振り返りについては、例年以下のような取組をもとに評価し、次年度の活動改善に繋げています。

各種行事おける生徒による自己評価

学習に対する生徒の自己評価

生徒による授業評価

保護者によるアンケート調査

舟橋村小・中学校運営協議会

地域、保護者の方々からのご意見等

2 具体的な施策の振り返り

(1)知部門（学習について）



ア 表現を大切にした授業



イ ICTの活用



ウ 少人数やTT指導

- ・アのように、表現力を養い、アウトプットを大切にした時間を確保することにより、一人一人が意欲的に取り組むとともに内容の定着を図っています。
- ・イのように、普段から一人一台端末を使った授業を展開することにより、学習内容を自分事として捉えることができるとともに、個別の調べ学習やまとめができています。
- ・ウのように、少人数生徒で授業を行ったり、複数の教員と一緒に個々の質問に対応したりすることにより、基礎学力の確かな定着を目指しています。

●全国学力学習状況調査の結果から

村報10月号でお知らせしたように、今年度の調査結果は県平均や全国平均をやや下回っています。授業における改善点として、基礎・基本の定着とともに、思考力や判断力を養うという目的をバランスよく織り交ぜることが必要になっています。

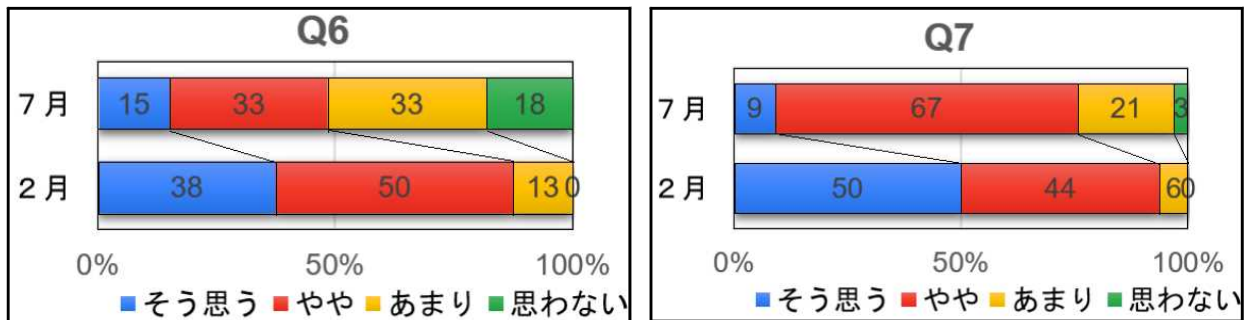
また、教師側のねらいや思いが生徒にどのように受け止められているかを確認しながら授業を改善していくことも大切です。

そこで、以下のように生徒の授業に対する自己評価と同様に、「生徒による授業評価」を実施し、改善を試みています。

【アンケートの一部】

Q6 この教科の授業の難しさや進む速さは生徒の様子に合っている。

Q7 この教科の授業では、先生から授業のはじめに学習課題やねらいがしっかりと示されている。



この結果から、7月から2月にかけて、授業の進度や内容についてが検討され、生徒の分かりやすさが改善されたり、授業の学習目標がより明確に生徒に伝わったりしていることが推察されます。

実際に、このような結果となっている教科では、成績の向上も見られます。今後も教師側が改善を図ることにより、よりよい授業を生徒と一緒にしていきたいと考えます。

(2)徳部門(心の教育について)



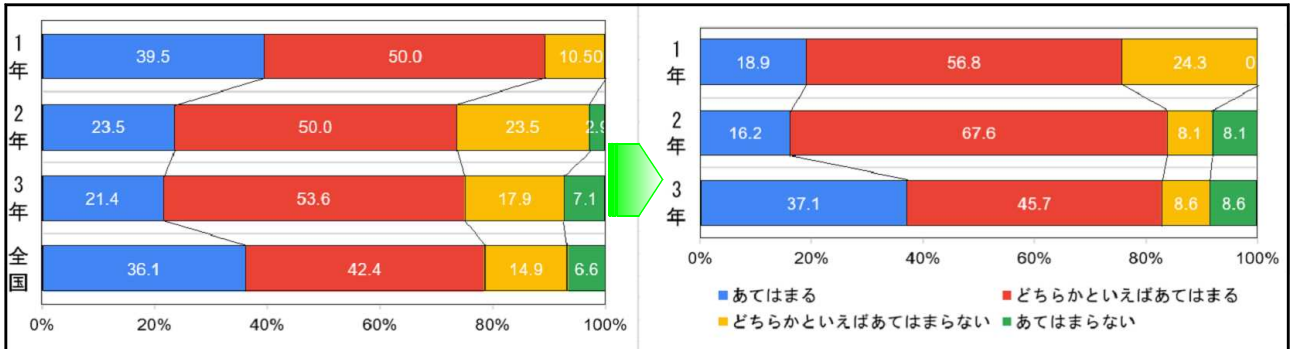
エ 修学旅行 平和学習 オ 社会に学ぶ「14歳の挑戦」 カ 絵本読み聞かせ

- ・エのように、今年度は、ようやく広島・関西方面への修学旅行に行くことができました。平和学習や集団生活の体験により、友人の大切さとともに世界平和への意識を高めることができました。
- ・オのように、コロナ禍で受け入れが難しい時期ではありましたが、地域事業所の協力により『社会に学ぶ「14歳の挑戦」』を行うことができました。13の事業所で5日間の実習取り組み、地域の温かさや家族への感謝を改めて学ぶことができました。
- ・カのように、1年生が小学校で絵本の読み聞かせを行うことが、伝統として位置付いてきました。このことにより、中学生として、また、先輩としての自覚と後輩を温かく見守る優しさをもつことができました。

●生徒質問紙の結果から

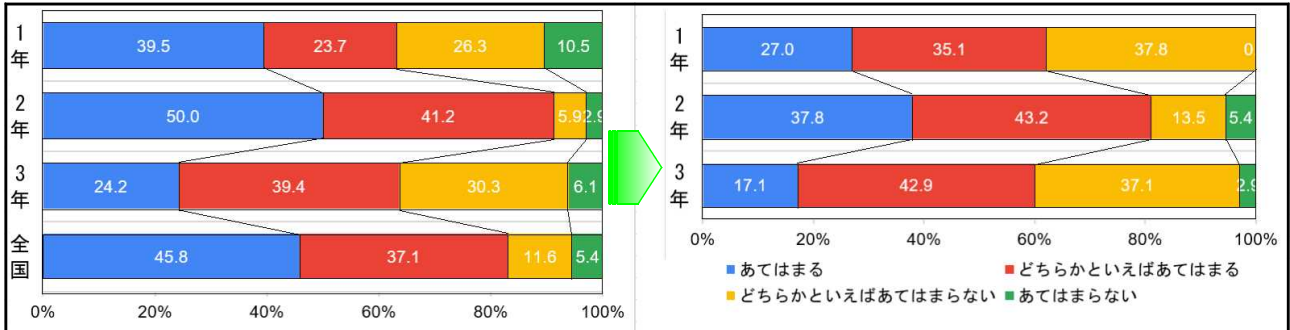
学校だより2月号でお伝えしたように、生徒のアンケート結果から、以下の2点について考察します。

下図は、『自分には、よいところがあると思う』という質問の【7月】と【2月】の結果です。



7月、2月の2回の調査ではありますが、全国とほぼ同様の約8割の生徒が、1年を通じて、肯定的に自分のよさを捉えていると推察できます。自分自身への肯定感が向上するのは、学校での学校行事の取組の努力を認めたり、授業など活躍をきちんと評価したりすることが功を奏していると考えます。また、それ以上に、家庭での家族からの信頼や何気ない感謝の「ありがとう」が自分のよさを感じることに繋がっていると言われていいます。今後も学校での生徒の頑張りを家庭に伝えながら、自分のよさを素直に認めることができる生徒の育成に努めたいと考えます。

次に、下図は『学校に行くのは楽しいと思う』という質問の【7月】と【2月】の結果です。



7月、2月の2回の調査ともに、「学校に行くのは楽しい」と肯定的に捉えている割合の傾向は、1, 3年生が全国の調査より低く、2年生が全国とほぼ同じと捉えることができます。学校の楽しさを感じる要因は、それぞれの生徒や時期によって異なると考えられますが、学校の諸活動を通じた効力感(〇〇ができた。)は学校の楽しさに大きな影響があります。日々の授業における生徒一人一人の「できた」を認めながら、友達と一緒にできたという学校ならではの一体感を共有することにより、学校の楽しさ、学校への期待感の向上に努めたいと考えます。

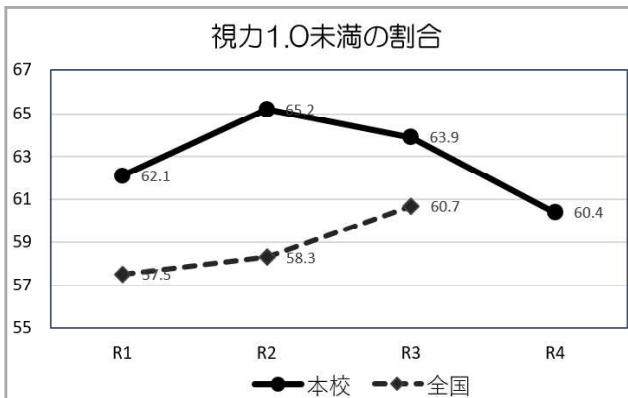
(3)体部門 (スポーツテストや視力等に関して)

スポーツ庁の報告では、学校で実施しているスポーツテストの体力合計点が令和元年度調査から連続して小・中学校の男女共に低下していると報じています。

本校の大きな男女別の傾向は以下の通りです。

- ・男子：県や全国の平均を上下し、経年変化としての低下は見られない。
- ・女子：全国的な低下傾向とは逆に緩やかに向上している傾向が見られる。

●視力検査の結果から



【視力1.0未満の経年変化】

【地域学校保健委員会】

メディア利用時間の増加やタブレット端末の利用が進みつつある現在、視力低下は全国的な成長期の課題の一つとなっています。グラフは視力1.0未満の本校全体と全国の割合の経年変化を表しています。全国の割合は令和元年度から少しずつ高くなっています。本校は令和2年度の割合が大変高くなっていましたが、少しずつ改善傾向が見られます。

多くのメディアに触れる時間が長くなりがちですが、中学校だけで注意していただくだけでなく、地域学校保健委員会(舟橋小学校5年生と本校2年生の合同事業)等を通して、メディアコントロール力やよい姿勢を小学校と連携して身に付けさせていきたいと考えます。

(4)アクションプランの振り返り

本校では、今年度以下3つの教師目標を定め、実践に取り組んできました。

- ①TDL、自学ノートによる家庭学習への週1回の助言を100%行う。
- ②TDLによるメディア利用時間への週1回の助言を100%行う。
- ③「自主・自律、自由と責任」の道徳科授業を学期2回それぞれを100%行う。

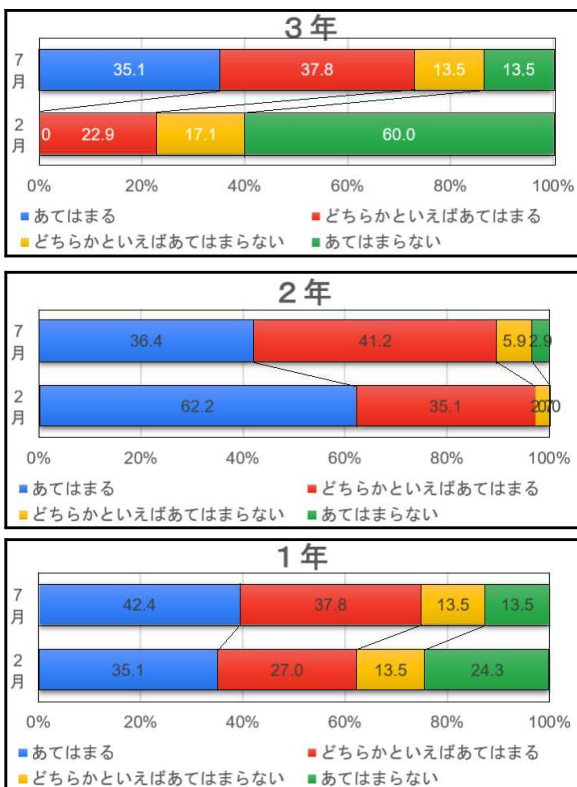
①、②について

左のグラフは、生徒に「自学ノートとTO DO LIST(以下、TDL)の家庭学習の計画と実践に対して、先生からの助言またはコメントが週に一度はあった。」かを尋ねたものです。

3年生は肯定的な回答は2割ほどと、大きく減少しました。2年生はほとんどの生徒が週に一度の助言をもらっていると受け止めています。1年生は肯定的な回答が6割ほどとやや減少しました。

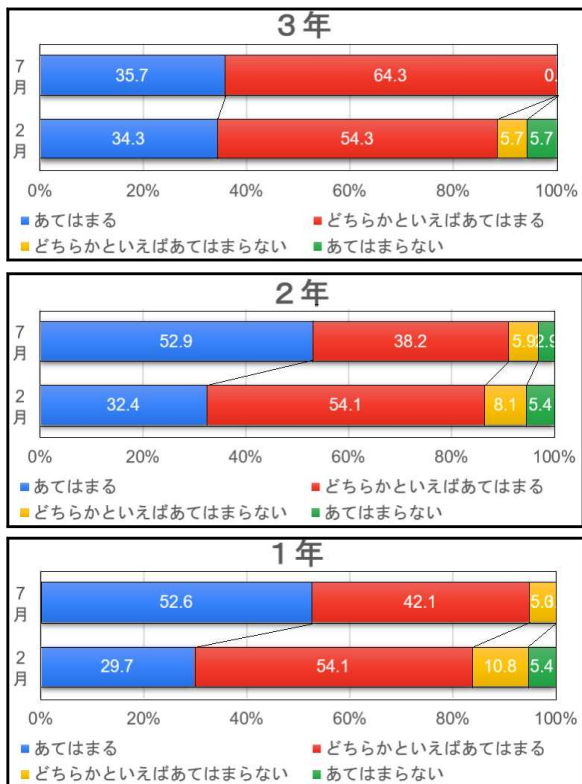
3年生は2, 3学期と進むにつれ、自分なりの学習方法を身に付けるとともに、自己管理が進んでいきます。自学ノートから離れて個々の学習に取り組んでいる様子もあり、学年の取組状況によってはより効果的な家庭学習の支援の在り方を検討する必要があります。

また、2年生は提出方法を変更することにより、生徒の記述と教師のコメントが往還し、好循環となりました。次年度は1年生も取組方法を検討し、より効果的な家庭学習の支援の在り方を検討していきたいと考えます。本校が長らく利用してきたTDLですが、学校全体でしっかりと活用することにより、家庭学習の充実にの充実に努めたいと考えます。



方を検討していきたいと考えます。本校が長らく利用してきたTDLですが、学校全体でしっかりと活用することにより、家庭学習の充実にの充実に努めたいと考えます。

③について



左のグラフは生徒に「道徳の授業において、自分の行動を振り返り、計画性や自主性が必要だと感じたことがある。」かを尋ねたものです。

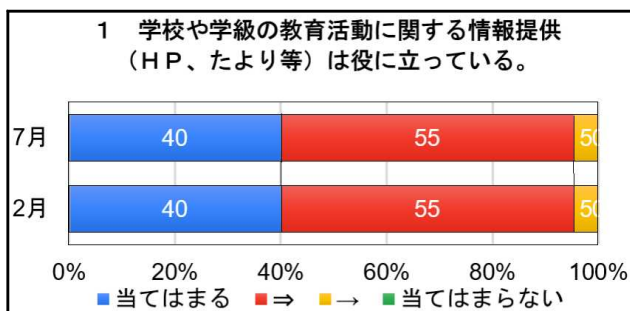
今年度、本校の生徒が大切にしてほしい価値を考え、「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の時間における重点項目を「自主・自律」としました。道徳科の授業時数は年間35時間しかありませんが、学期に2回ずつの「自主・自律」をテーマにした授業をすることにより、1年間を通じて8割以上の生徒が計画性や自主性を意識していたのではないかと推察されます。

ただし、道徳科の授業だけが直接「自主・自律」に向かう心を育てているわけではありません。前述のTDLを通じた教師の助言や家庭での励ましが安心感となり、「自分で考えよう、自分でやってみよう」ということにつながっていると思います。今後も学校として大切にしたい価値について考えるとともに、ご家庭でも温かい励ましをお願いします。

3 保護者アンケートやご意見から



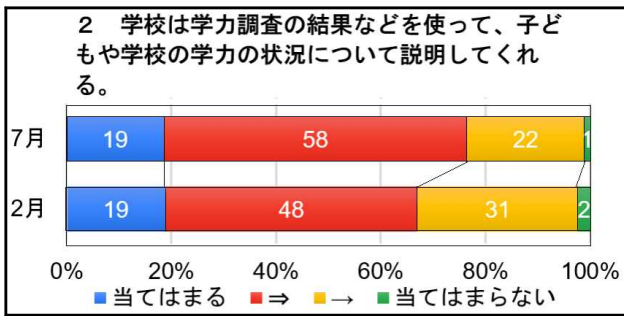
- キ 入学式や卒業式 ク 体育大会、学習発表会 ケ 学習参観、三者懇談会
- ・キのように、感染症対策をとりながらの行事運営が続いていますが、保護者の皆様から事後の感想やご意見をいただきながら改善に努めています。
 - ・クのように、今年度の体育大会は後半雨天となりましたが、観戦場所等のご協力をいただいたり、閉会式の体育館実施など、急な変更にもご対応いただきました。
 - ・ケのように、学習参観や三者懇談会等においてお子さんの様子や授業の様子からもご相談をいただいています。日々のご意見や以下のアンケート結果を生かしながらよりよい学校づくりに努めたいと考えています。



(1) 学校からの情報提供について

学校だよりやホームページ、安全メール等で学校からのお知らせを行っていることについては、多くの方々に肯定的な回答をいただいています。

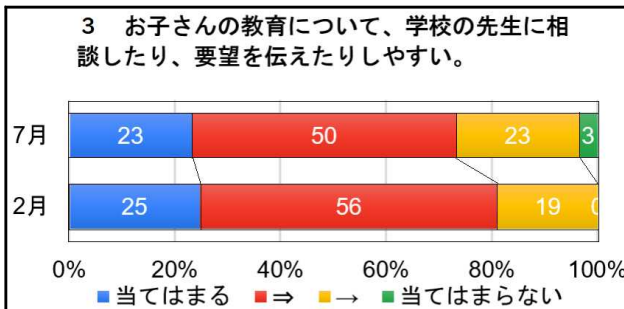
ホームページのデザインや安全メールのシステムの変更などに、ご理解、ご協力を今後もお願いします。



(2)学力の状況に関する説明について

1年を通じて7割～8割ほどの肯定的な回答をいただいています。各テスト毎に成績連絡票等をもとに面談をしながら生徒への説明をしていますが、保護者の方々への情報の伝え方に工夫が必要と考えています。

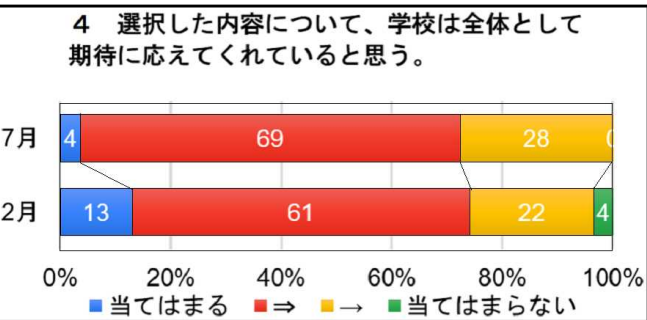
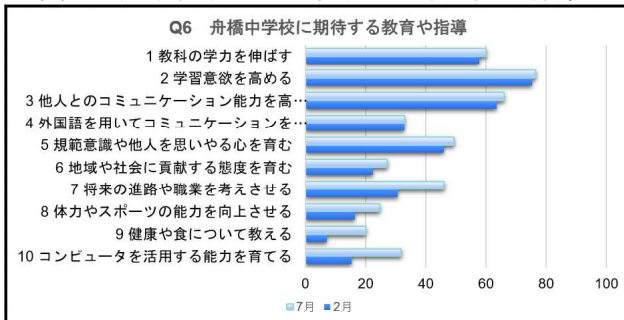
一人一人の状況も異なるため、共通した紙面での説明が難しい場合もあります。ご質問等がありましたらぜひ学校にご連絡いただくとありがたいです。



(3)学校への相談のしやすさ

8割ほどの肯定的な回答をいただいています。その反面、2割ほどの方々には学校への相談のしづらさを感じていると推察します。時間や場所、相談したい内容に応じて準備したいと思います。相談、要望等があればまずは一報ください。

(4) 舟橋中学校に期待する教育や指導



1年を通じて、①学習意欲の向上 ②コミュニケーション能力の向上 ③教科学力の向上が期待されていると分かります。また、上右図からは、その期待に対する肯定的な回答は7割程度であると分かります。

今後も学習意欲やコミュニケーション能力を支える情意面の成長を学校と家庭の両面で認め、支えながら、よりよい教育活動の充実に努めたいと考えます。

4 まとめ

(1)学習意欲・学力の向上について

学校の授業では「分かる」「できる」を感じ、学習意欲を向上させるための「少し難しい解き応えのある課題」を設定することが大切です。次年度も目には見えづらい学習意欲の向上を目指し、日々の学習への取組を認め励ましながら、学習課題の在り方について研修し、学力の向上に努めたいと考えます。

また、ICTの活用とメディアコントロール、家庭学習の充実など、中学校だけでは改善が難しい課題もあります。次年度からはこれまで以上に小学校とも連携を図りながら、一人一人を見つめ育てる教育活動に努めたいと考えます。

(2)保護者と連携について

今年度いただいた、定期テストの在り方や学校行事の進め方、学年懇談会や部活動保護者会の内容等については、関係の方々との連携を図りながら改善に努めます。また、体育大会や学習発表会など、よりタイムリーな保護者の皆様からの評価が得られるよう、ご意見の集め方についてもICTを活用しながら取り組んで参りたいと存じます。今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力の程何卒よろしくお願いいたします。